

令和6年度鳥取県自主防災組織等知事表彰受賞者名簿及び功績概要

【功労表彰】

受賞団体	功績の概要
<p>鳥取市 みほみなみ 美保南地区自主防災会連絡協議会</p>	<p>美保南地区は、平成28年3月に美保南地区防災計画を作成し、この計画に基づく地区防災活動を本格的に開始した。 当地区全域が、千代川の洪水浸水想定区域（想定最大規模）内となり、その浸水深は3mから5mと想定されている。 このことから、令和4年度から水害を想定した避難所開設・避難者受け入れ訓練を美保南小学校校舎で実施しており、本年度も実施予定である。 平成28年度から令和3年度については、地震を想定した避難所開設・避難者受け入れ訓練を地区体育館等で実施しており、その規模は300名余り。 豪雨、台風等による避難情報の発令による避難所開設（美保南小学校・美保南地区公民館）を4回行っている。（平成30年：1回、令和3年：1回、令和5年：2回） 水害のリスクを視覚化して、早期避難行動につなげる目的ですべての町内会に浸水深表示板を鳥取県と協働で設置した。また、避難先の選択を浸水想定区域外となる若葉台地区も考慮するよう広報している。</p>
<p>米子市 ひがしちょう 東町自治会 防災福祉部</p>	<p>当該自治会は、米子の中心地に位置しており、住宅やビルが密集しているほか、近くを流れる旧加茂川の浸水想定区域となっていることから、災害対応を意識した様々な内容の防災訓練や研修会を毎年実施している。特に、避難対策に力をいれており、若年層への積極的な声かけや月1回の公園清掃を通じて、多世代間の交流を図ることで災害時の顔の見える関係を構築している。 防災訓練・研修会では、親子での参加を促進するために、水消火器を使用した消火訓練、非常食の炊き出し体験、テントを使用した煙体験、防災グッズに関するジェスチャーゲームなど、子どもが体験でき楽しむことができる訓練内容となるよう工夫しているほか、過去に支え愛マップを作成しており、地区内の要配慮者の状況を多世代交流を促進することで把握するよう努めている。 また、地域内の住民に対し国等の防災施策の内容や防災知識の普及、防災会の活動周知を図るために、防災情報誌「防災通信」を独自に作成し、地区内に配布している。 このように、多世代の交流を図り、若年層が参加しやすい防災活動の環境整備に取り組む姿勢は、地域防災力の向上に大いに貢献しており他の模範である。</p>
<p>倉吉市 みなとまち 湊町自主防災会</p>	<p>令和2年12月3日、本市の支援により結成・活動を開始し、同年8月に倉吉市の自主防災組織として登録。 令和3年4月から防災訓練を毎年行っている。 第1回、2回では、避難経路確認・炊き出し・土のう作りと運搬等を行い、第3回では、町民の避難場所における避難者数を把握する確認事項手順や役割分担を明確にて実施した。また、今年度は第4回目となる防災訓練を実施する予定。 令和2年10月に防災マップを作成し、令和4年10月に更新を行い、構成世帯すべてに防災マップの配布を行っている。 また、災害時に備え本市補助金を利用し、必要数の備蓄品や消火器等の整備も行っている。</p>
<p>南部町 おおくに 大国地域振興協議会</p>	<p>大国地区は13集落の自治会で構成され、さらに工業団地と形成されている地域であるが、法勝寺川が隣接しているなど、水害の恐れもある地域となっている。 平成30年7月～9月に、台風・大雨警報による水害が発生したことにより、地区内でも防災意識が高まり、「おおくにづくり計画」にて、防災上の取組み目標を定めて、防災マニュアルや消防資機材の整備に着手した。 また、協議会を中心に各自治会で防災訓練を始め、当初は消火訓練がメインだったが、住民の意識が高まるにつれて、現在では地震や水害を想定した訓練も実施している。 そして、さらなる防災意識向上のため、令和4年度から南部町と合同で防災訓練を実施することになり、令和4年7月24日に「地震災害伝達訓練」を実施し、さらに令和5年10月29日に「地震災害情報伝達訓練及び避難所開設訓練」を実施した。また、大国地区で防災士を取得している住民を中心に「おおくに防災士会」を結成し、日頃から各集落の危険箇所の点検や消防資機材の整備をする等、精力的に活動している。 今後も同様な取組みを継続していきながら、地域の防災体制を構築していき、さらなる地域防災力の向上に努めていくとしている。</p>